



## 令和6年度 卒業式 式辞

ただいま、卒業証書を授与され、本校を巣立ちゆく、第七十七回生二百五十二名の皆さん、卒業おめでとうございます。

今日、ここに皆さんの晴れの日を迎えることができたことを教職員一同大変嬉しく思っています。

皆さんは、令和四年四月にこの二見中学校に入学しました。中学校生活への期待を、胸に抱いた入学式はマスク着用、入場制限、学級開きには保護者が入らないなど、まだまだ行動や生活に制限のある状態での開催でした。文化祭も学年の合唱は行われませんでした。そんな中でも百人一首大会で大変盛り上がり、パワーを感じたことが印象的です。二年次の五月八日にコロナウイルス感染症が五類に位置づけられたことで、様々な制限がとり払われました。授業や行事、部活動に思い切って取り組むことができるようになりました。そして今年度、沖縄を訪れた修学旅行では、むごい戦争で亡くなった人に思いをはせ、平和の大切さを改めて学びました。また、体育大会をはじめとした様々な行事ではこれまで蓄えてきた力を発揮し、コロナ後の二見中が向かうべき新たな形をしめしてくれました。そういう意味で、この三年間は皆さんの人生において、かけがえのない時間だったのではないのでしょうか。

さて、今年、二〇二五年は昭和の時代が続いているとすれば昭和百年になります。この百年間で社会は大きく動いています。世界中が戦争という不安定な状況で始まったその百年で社会は大きく変化していきました。工業社会である Society3.0から超スマート社会である society5.0への変化の速さは私たちの想像をはるかに超えたものです。使ったことがある人も多いと思いますが、対話型の生成AI ChatGPTの広まりが良い例だと思います。産業技術の発展だけでなく、戦争や自然災害など、本当に何が起るかわからない時代です。その予測が困難な「VUCA」と言われる時代を生きていく皆さんに伝えたいことがあります。

ここまで、二見という地で共に歩んできた皆さんは、これから先、それぞれの道を進んでいくことになります。道を進んでいく途中のどこかには、進むことを邪魔するものがあります。それを乗り越えて進むのか、迂回するのか、引き返すのか決めなければなりません。どうしても進みたい道ならば、挑戦し続けてください。また、道が分かれていることもあります。選択肢は二つ以上ある

かもしれません。皆さんそれぞれが経験してきたことを踏まえ、納得がいくまで悩んで決めてください。そして進んだ先の結果を受け入れてください。その結果は、うまくいったと思うものかも知れません、うまくいかなかったと感じて落ち込むことになるのかも知れません。それはあくまで、その時の結果だということです。そして、その結果が出た時が、次の出発点です。皆さんは、その選択を繰り返し、それぞれの人生を生きていくのです。過去は取り戻せませんが、未来は自分次第でどうにでもすることができます。ケ セラ セラです。前を向いて、その時その時に、最善を尽くしてください。起こった出来事はすべてが宝物です。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。保護者の皆様に支えられ、本日、卒業の日が迎えられました。今日の佳き日を迎え、立派に成長されたお子様の姿に、感慨もひとしおのことと存じます。振り返れば、長いようで、短い義務教育の九年間だったことと思います。特に中学校の三年間は、思春期を迎え、心身ともに不安定な時期である上に、コロナ禍をきっかけにした生活様式の変化への対応など、ご苦勞の多い三年間だったとご推察申し上げます。また、三年間、本校の教育にご理解、ご協力を賜りましたことに、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。今後とも、地域の良き理解者として、本校の教育に、ご支援くださりますよう、お願いを申し上げます。

卒業生の皆さん、明日から、この二見中学校が皆さんの母校です。同時に、二万一千人を超える二見中学校の、同窓会の会員です。二見中学校の卒業生は、様々な分野で活躍しています。今後、その母校のつながりが、皆さんを助けてくれることもあるはずです。これからも、「I ♥ FUTAMI 宣言」スーパー運動で培った自律の精神を活かし、学び続けて下さい。そして、次代の担い手になってくれることを願い、私たちは応援しています。

結びに、卒業生の皆さんの輝かしい未来と、保護者の皆様のご健勝を、心から祈念し、式辞といたします。

令和七年三月一四日  
明石市立二見中学校長